

## こども環境学会 第7回合同セミナー報告 「緑・水・土・光とこどものそだち」

### 1. 大会概要

日時：2018年9月22日(土)・23日(日)

会場：大阪工業大学梅田キャンパスOITタワー

主催：こども環境学会第7回合同セミナー開催委員会

プログラム：22日(土)

エクスカージョン1 あげぼの幼稚園見学

基調講演 ランドスケープデザイナー長濱伸貴氏

研究発表・活動報告

23日(日)

エクスカージョン2 水面からみる大阪のまち

参加者数：一般23名、大学院生14名、学部学生13名

### 2. エクスカージョン1 あげぼの幼稚園(認定こども園)

建築家・竹原義二氏の設計によるあげぼの幼稚園は、近隣に同法人が運営する保育園、小規模保育園もあり、所員の武長晃弘氏、榎隆生氏の案内で一連の園舎を見ながら幼稚園に到着した。沿道からは中庭の緑がチラチラ見える程度であるが、中に入ると園舎に囲まれた庭は、木々の緑、ツリーハウス、土管や縄でつくった遊具など、ワクワクする空間が広がっていた。当日は園庭開放で、前日の雨でできた大きな水溜りに子どもたちは大はしゃぎ。保護者も一緒に泥んこあそびを楽しんでいた(写真1)。竹原作品の特徴である広い縁側はきめ細かなデザインがされており、素足の園児たちは寝転んだり、走ったり、座ったり、柱によじ登ったり、時には先生に注意されたり……縁側が大切な育ちの場であることが垣間見えた。

### 3. 基調講演「外空間におけるこどもの居心地」

なんばパークスや本会場・OITタワーの外構など数多くの外部空間を設計されたランドスケープデザイナー・長濱伸貴氏は(神戸芸術工科大学環境デザイン学科教授)、都市の野性について、欧州は野性を排除したまちを形成してきたのに対し、日本は古くからいきものとの折り合い方、共存の仕方を育み、それが今、世界に発信できると指摘された(写真2)。続いて、外部空間のデザインにおいて、かつて盛んに議論された「形」「プログラム」は既に一定水

準にあり、今は「パフォーマンス(どう動かすか)」が問われていること、そして、パフォーマンスが「居心地のよい場所=居場所」に影響すると話された。たとえ木がなくても、こどもの動き、回遊性、溜まりのパフォーマンスをデザインすることが、こどもの居場所づくりに重要と示され、興味深い内容に、フロアからは多く質問が飛び交った。

### 4. 研究発表・活動報告

研究報告6題、活動報告1題、各15分の持ち時間により、発表ごとに活発な質疑応答が展開された。こどもの学習・教育セッションでは、エコツーリズムや若者の環境教育を通じた人材育成、はだし教育実施校での児童・保護者の意識、こどもの環境・地域のセッションでは、放課後子ども教室、児童館、こどもと車の共存できる道づくりに関する研究発表があった。活動報告では、滑川宿地域活動の紹介があった。

### 5. エクスカージョン2 水面からみる大阪のまち

安治川河口から大阪難波まで、大阪の中心部を流れる川を船で巡った。「水都おおさか」の名のとおり、大阪のまちは川とともに発展し、水際の風景は歴史と工夫を感じさせるものであった。同時に、時代とともに変化する水辺空間は多くの人々に愛され、時間を越え、世代を越え、国を越え、今なお大阪のホットスポットであると感じた。お天気にも恵まれ、落語家の軽快な解説を聞きながら、参加者は90分のクルーズを満喫した(写真3)。

### 6. おわりに

合同セミナーが7回目を迎え、実行委員会では改めて開催意義を自問し、大会に参加しにくい若い人を呼び込みたいと考えた。参加総数は少なめであったが、半数が学生であり、一般会員にもいい刺激となった。五十嵐会長も参加いただき、若い人たちが実績豊富な先生方とフラットに語れる場となり(写真4)、また、基調講演や研究活動報告では活発な議論ができ、合同セミナーの魅力を感じた2日間であった。ご協力いただいた方々に紙面を借りて御礼申し上げます。(文責：こども環境研究会関西・実行委員長 大谷)



写真1 エクスカージョン1

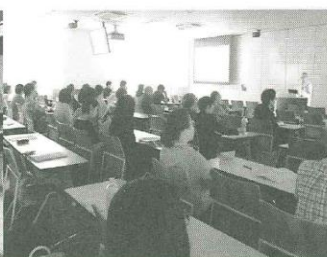


写真2 基調講演



写真3 エクスカージョン2



写真4 研究発表・活動報告後の懇親会